

林 重雄¹：愛知県田原市にトグロコウイカの漂着

Shigeo HAYASHI¹ : *Spirula spirula* stranded on the beach of Tahara City, Aichi Prefecture, Japan

トグロコウイカ *Spirula spirula* (Linnaeus, 1758) は、コウイカ目トグロコウイカ科 *Spirulidae* に属する小型のイカである (奥谷 2000)。世界の熱帯中層域に広く分布し、昼間は水深550-1000mあたりで休息し、夜間には採餌のために水深100-300mあたりまで浮上する (Norman 2000)。本種の殻は特徴的な内殻で、螺旋形をしており、オウムガイ同様に殻内部に多数の気室をもっている。そのため死後の殻は浮遊し、日本列島南西部の海岸に漂着するとされる (中西 1999)。

日本でのトグロコウイカの漂着記録は1965年に和歌山県白浜町で最初に確認された (湊 1965)。その後2000年代の記録には、沖縄県西表島 (盛口 2002)、沖縄県石垣島 (金子 2002)、神奈川県葉山町 (安延 2002)、千葉県鴨川市 (立川 2004)、和歌山県串本町 (河辺 2005)、三重県志摩市 (猿渡 2005)、鹿児島県奄美大島 (茂野 2006)、千葉県南房総市 (池田 2009)、沖縄県宮古島 (加藤 2009) 徳島県東洋町 (山田ほか 2010)、徳島県海陽町 (山田ほか 2010)、愛知県豊橋市 (牧野 2010) からの情報がある。このように本種の漂着は千葉県以南の太平洋側に偏っている。今回、本州中部に位置する愛知県田原市の海岸でトグロコウイカの殻の漂着を確認したのでここに報告する。



図1 田原市赤羽根町の位置。

漂着記録

筆者は2012年7月7日、愛知県田原市赤羽根町 (図1) で漂着物の調査中にトグロコウイカの殻が漂着しているのを確認した (図2)。赤羽根町は渥美半島のほぼ中央に位置し、豊橋市の南西25kmほどにある。赤羽根町の太平洋岸は、第四系更新統の海食崖が続く真っすぐな海岸線で、昔から片浜十三里と呼ばれている (田原市 2008)。赤羽根町の南側は海に面し、初夏から秋口にかけて南風が吹くと、漂着物が寄り集まりやすい場所である。赤羽根町ではこれまでにココヤシ、ゴパンノアシ、ミフクラギ、シロツブ、ジオクレア、モダマといった南方系植物の種子や果実の漂着が確認されている (林重雄 ブログ)。

発見時 (午前10時) の天候は曇、気温24.3℃、南南西の風、風速2.4m/s (気象庁ホームページ) であった。トグロコウイカの殻は海岸の高潮線上に細かな流木などと一緒に漂着し、砂の上に乗った状態で発見された。本標本は損傷を受けておらず、胚殻および殻口部まで保存されており、長径は21.6mm、短径は15.5mm、厚さは6.7mmであった。また表面への付着物は認められなかった。なお、赤羽根海岸では同日に高潮線上でジオクレア、シナアブラギリ、アサガオガイといった南方由来の漂着物が散見された。

考察

発見当日の満潮は7時18分であった。赤羽根町に近い伊良湖岬の気象データ (気象庁ホームページ) によれば、深夜から早朝にかけて風速2.2~4.6 (m/s) の南南西の風が優勢であったので、トグロコウイカは風に吹き寄せら



図2 赤羽根町に漂着したトグロコウイカ (*Spirula spirula*)。

れた漂流物と一緒に満潮時に漂着したものと考えられる。また、7月5日付の海流図を参照すると、黒潮は潮岬で本州に最接近した後に大きく蛇行すること無く東に向かっている。そのため反流も愛知県沿岸に接近しやすくなっており（海洋情報部ホームページ）、黒潮の流路の特異性がトグロコウイカ漂着の一助になったと考えられる。

謝辞：本稿をまとめるにあたり北海道教育大学札幌校の鈴木明彦教授には、粗稿を見ていただいた。ここに記してお礼申し上げる。

引用文献

海上保安本部 海洋情報部ホームページ。

(<http://www1.kaiho.mlit.go.jp/KANKYO/KAIYO/qboc/2012cal/cu0/qboc2012128cu0.html>)

林 重雄 ブログ。Beachcomber's Logbook (<http://beachcomb.exblog.jp/>)

池田昭一 2009. 内房にもトグロコウイカ漂着。ちりぼたん40 (1) : 53.

加藤詩邦 ブログ。南の島の静謐な日々 (http://blogs.yahoo.co.jp/coral_lounge84/archive/2009/03/26)

金子光晴 ホームページ。海辺の標本箱 (<http://www.ishigakijimaumibe.com/yuimun/04kai/02page/014kai.html>)

河辺訓受 2005. トグロコウイカ和歌山県串本に2個体漂着。ちりぼたん36 (3) : 93-94.

気象庁 ホームページ。(<http://www.jma.go.jp/jma/menu/report.html>)

中西弘樹 1999. 漂着物学入門. 211pp. 平凡社, 東京.

Norman, M. 2000. Cephalopods: A World Guide. 320pp. Conch Books, Germany.

湊 宏 1965. *Spirula spirula* (Linne) の漂着について. 南紀生物 7 (1) : 28.

牧野伸一 ブログ。のんほい浜日記 (<http://d.hatena.ne.jp/caretta64/20100813>)

盛口 満 2002. ぼくは貝の夢を見る. 148pp. アリス館, 東京.

奥谷喬司 2000. 日本近海産貝類図鑑. 1173pp. 東海大学出版会, 東京.

猿渡農園 ホームページ。(<http://www.geocities.jp/tougokuyamanoosarusan/KAIGARA.html>)

茂野 潤 ブログ。小坂分校アマミ資料室 (<http://joliotkissme.asablo.jp/blog/2008/03/16/2760347>)

立川 浩之 2004. 千葉県鴨川市に漂着したトグロコウイカの死殻 (コウイカ目: トグロコウイカ科). 南紀生物, 46 (1) : 63-64.

田原市 2008. たはらの海辺の博物誌. 95pp. 田原市, 愛知.

安延尚文 ホームページ。海山歩記 (<http://ashibee.net/kaikai.html>)

山田量崇・濱 直大・茨城 靖・中尾賢一 2010. 四国におけるトグロコウイカの漂着記録. ちりぼたん40 (3-4) : 145-147.
(Received July 17, 2012; accepted Aug 22, 2012)

¹ 〒486-0844 愛知県春日井市鳥居松町 3-155

¹ 3-155 Toriimatsu-cho, Kasugai City, Aichi 486-0844 Japan